

3. 各区のあらまし

【中央区】 シンボルマーク(昭和50年4月制定)



地域資源(藻岩山)を活用したイベント

〈位置と広さ〉

市の中央部に位置し、北区、東区とはJR函館本線で、白石区、豊平区とは豊平川で、南区、西区とは南西部山地の稜線で接しており、その形は東西に長い。面積は46.42平方キロメートルで、東西に15.3キロメートル、南北に9.8キロメートルの広がりをもつ。

〈地勢と現況〉

中央区は、札幌の中心として計画的な街づくりが進められ、現在では、大通や駅前通に面して官庁や企業の近代的なビルが立ち並び、道内最大の中枢管理機能の集積地となっている。一方、昔の面影を残した建物や史跡、円山や藻岩山、豊平川など豊かな自然にも恵まれている。

また、区のシンボルにもなっている市電(路面電車)は、市内では唯一中央区内で走行しており、区民が強い愛着を持ち続け市民生活に定着したものとなっている。平成27年には、「西4丁目」停留場から「すすきの」停留場まで新たに駅前通で接続したループ化の営業を開始し、利便性・回遊性の向上とともに、今後も市電を生かしたまちづくりが期待されている。

区では、区民に信頼され、区民の視点に立ち、質の高い行政サービスを目指すとともに、区政への区民参加を広げ、多くの区民が住みよいまちづくりの担い手となるよう支援を進めている。

これまで、地域資源を活用した「アタック・ザ・531M(藻岩山ファミリー登山)」や「まちの魅力再発見事業」のほか、地域住民や地元企業などとのアダプトプログラムによる「環境美化活動」、地域と学生ボランティアの連携による「ウィンタースポーツフェスタ in 大倉山」開催など、地域の多様な団体、資源・特色を生かしたまちづくりを進めている。

〈ホームページ・アドレス〉

中央区役所ホームページ「市電のふるさと中央区」<https://www.city.sapporo.jp/chuo/>

【北 区】 シンボルマーク(昭和52年3月制定)



創成川通のポプラ並木

〈位置と広さ〉

市の北部に位置し、区の東は創成川、旧篠路村境界で東区と、西は新川を挟み、西区及び手稲区と、南はJR函館本線を境として中央区と、北は発寒川、茨戸川及び石狩川を隔てて石狩市、当別町と接する。面積は63.57平方キロメートルで、東西に14.2キロメートル、南北に13.7キロメートルの広がりをもつ。

〈地勢と現況〉

地形は平たんで山がなく、地質・地盤は鉄西地区などの一部を除き、粘土質の土地や泥炭からなり軟弱である。水辺に恵まれた北区には、大小多くの河川が流れており、特に創成川、伏籠川、発寒川の3河川が合流する茨戸の水郷景観は、他に見られない素晴らしいものとなっている。昭和20年代までは、旧札幌市街である鉄西、幌北地区などが市街化していたが、昭和30年代に入り、札幌市の人口の急速な増加と並行して新琴似、屯田、篠路地区などの農業、酪農地帯の市街化が進み、その後、屯田、篠路、あいの里などの地域で宅地化が進展したことなどにより、人口も約29万人と10区の中で最も多くなっている。

また、札幌駅北口周辺では、昭和63年に完成した鉄道高架事業をきっかけに再開発事業が進展し、札幌第一合同庁舎や札幌エルプラザなどをはじめとするビルが建ち並び、オフィス街を形成している。加えて、広大なキャンパスを持つ北海道大学のほか、北海道教育大学など多くの高等教育機関が存在し、文教地区としても発展している。

そのような環境を生かし、北区では、学生や地域住民と連携した各種まちづくり活動をはじめ、高齢者等が安心して暮らせるよう、地域連携による見守り支え合い活動の推進、災害に備えた避難所運営研修などを地域住民と協働で行っている。また、「北区歴史と文化の八十八選」や「農村歌舞伎」のPR等、地域の特色ある歴史や文化を生かした取組や、隣接市町との交流による活力あるまちづくりを進めている。

〈ホームページ・アドレス〉

北区役所ホームページ「みてきて北区」<https://www.city.sapporo.jp/kitaku/>

【東 区】 シンボルマーク(昭和52年7月制定)



幻のたまねぎ「札幌黄」

〈位置と広さ〉

市の北東部に位置し、区の南はJR函館本線を境に中央区と、西及び北はそれぞれ創成川、旧篠路村境界で北区と、東は白石区、江別市及び当別町と接している。面積は56.97平方キロメートル、東西9.3キロメートル、南北11.0キロメートルに広がっている。

〈地勢と現況〉

地形は平たんで、地質は鉄東地区の一部を除き埴土及び泥炭から形成され、伏籠川やモエレ沼が古豊平川の名残りをとどめている。区の北東部には、タマネギ栽培を中心とする農地が広がり、北区に次ぐ耕地面積を有している。一方、苗穂地区にJR苗穂工場や大規模食品工場、丘珠地区に鉄工団地などが立地しているほか、都心に隣接して古い街並みも残っている。

東区では、昭和33年から土地区画整理事業が進められ、大規模施設も相次いでオープンしている。平成7年にサッポロさとらんど、平成9年に札幌市スポーツ交流施設(つどーむ)、平成17年には、昭和57年から造成が進められていたモエレ沼公園がグランドオープンし、いずれの施設も札幌を代表する施設として現在も大勢の市民が利用している。

この間、将来的なまちづくりの基本指針として、平成10年に「東区ゆめプラン21」を策定。このプランの基本的方向を踏まえ、区民が主役のまちづくりと、区民に親しまれ信頼される区役所づくりの2点を目標に掲げながら、東区に住んで良かったと実感できるまちづくりを推進してきた。

近年は、防災協働社会を目指し、各地区のニーズに応じた自主防災活動を支援するとともに、若年層や子育て世代等の多様な世代に対する防災普及啓発を実施している。また、東区と協力して地域貢献を行う企業・団体等(タッピーフレンズ)と連携しながら、魅力と活力にあふれるまちづくりを進めている。さらに、地域活性化に向けて、東区ならではの魅力を区内外に向けて広く発信するため、年間を通じて様々なイベントや広報活動を実施するとともに、誰もが生涯健康で、自分らしく活躍できるまちを目指し、ウォーキング体験会や地元スポーツチームの試合招待イベントを開催するなど、幅広い世代の方々が気軽に健康づくりやスポーツに触れられる取組を実施している。

〈ホームページ・アドレス〉

東区役所ホームページ「ようこそ ひがしく」<https://www.city.sapporo.jp/higashi/>

【白 石 区】 シンボルマーク(昭和 52 年 8 月制定)



白石区マスコットキャラクター「しろっぴー」「くろっぴー」

〈位置と広さ〉

市の東部に位置し、北は江別市に、南は東北通を境に豊平区及び清田区と接する。また、東は厚別区、西は豊平川を境に中央区と東区に隣り合う。面積は 34.47 平方キロメートルで、東西に約 8.7 キロメートル、南北に約 8.7 キロメートルの広がりを持つ。

〈地勢と現況〉

古くから軽工業や商業の街として栄え、昭和 30 年代には急増する人口の流入地域として宅地化が進んだ。

J R 函館本線・千歳線、地下鉄東西線、国道 12 号、道央自動車道などの各種交通網が発達しており、札幌市の交通の要衝となっている。

区内には、大規模会議場や展示場機能を併せ持つ札幌コンベンションセンター、地震体験コーナーや消火体験コーナーを備えた札幌市民防災センター、産業情報の提供などを行う札幌市産業振興センター、大型イベントの会場となるアクセスサッポロ（札幌流通総合会館）、国際交流施設の J I C A 北海道（札幌）や札幌国際交流館（リフレサッポロ）、道内の物資の集散地である大規模な流通センターなど札幌市を代表する施設がある。また、都市生活に潤いをもたらす場として、白石こころ一ど（旧白石サイクリングロード）や川下公園などがあり、子どもからお年寄りまで多くの人々に利用されている。

住民のコミュニティ活動では、白石区ふるさと会をはじめとする地域の団体が、文化の振興、青少年健全育成、緑のまちづくり、祭りなどふれあいの場の創出、地域の防災・防犯、高齢者の見守り、さらには歴史的なつながりがある宮城県白石市や北海道登別市との交流など、様々な活動を積極的に進めている。

区では、区民の皆さまが「白石区に住んで良かった・住み続けたい」と思える魅力あるまちづくりを目指して、毎年「しろいしアクション」を策定しており、「安全・安心で快適に暮らせるまち」「地域のチカラ、魅力の向上」「区民のための区役所」の 3 つを運営目標として掲げ、様々な事業を行っている。

〈ホームページ・アドレス〉

白石区役所ホームページ「おもしろいしWEB」<https://www.city.sapporo.jp/shiroishi/>

【厚別区】 シンボルマーク(平成2年2月制定)



ふれあい広場あつべつで行われる
恒例の「厚別区民まつり」

〈位置と広さ〉

市の東部に位置し、北東は江別市と、南東は北広島市と接する。また、南は清田区と、西は厚別川、一部三里川を区境に白石区と隣り合う。南北9.9キロメートル、東西5.0キロメートルの広がりをもつが、面積は24.38平方キロメートルと10区の中で最小である。

〈地勢と現況〉

地形はJR函館本線を境に、北の平野部、南の丘陵部に大きく分かれ、丘陵部は厚別川、野津幌川、三里川、小野津幌川が流れ、全体にゆるやかな起伏となっている。

昭和30年代の大規模な団地建設、昭和47年の厚別副都心開発基本計画に基づく都市空間の創出などにより、農業地帯だった街並みは大きく変ぼうした。現在の厚別区は、JR新札幌駅、地下鉄新さっぽろ駅付近を中心とした商業地区と周辺の住宅地からなるが、野幌森林公園など豊かな自然環境にも恵まれている。

区内には、情報産業が集積する「札幌テクノパーク」や大型社会教育施設の「札幌市青少年科学館」・「サンピアザ水族館」・「北海道開拓の村」、道内唯一の第1種公認陸上競技場であり、また北海道コンサドーレ札幌のホームゲームも行われる「厚別公園競技場」がある。

区では、地域課題の解決などに取り組む「あつべつ区民協議会」への支援をはじめ、多くの人がまちづくりに関心を持ち、積極的に参加できるよう、区民を主役としたまちづくり活動を推進している。さらに、大規模複合開発が進む新さっぽろ駅周辺地区の「まちびらき」を令和5年秋に控え、ふれあい広場あつべつを活用したイベントの誘致を進めるほか、「厚別区民まつり」をはじめとするイベントの開催支援など、地域交流の拠点として「新さっぽろ駅周辺のにぎわいづくり」に取り組み、厚別区全体の活性化につなげている。

また、高齢の方が、住み慣れた地域で、健康で生き生きと活躍し続けることができるよう「生涯現役を目指した地域活動人材づくり」にも力を入れており、北星学園大学と連携し、種々の学習プログラムを高齢者に提供するとともに、地域活動への参加意欲の向上と活動への橋渡しに取り組んでいる。

〈ホームページ・アドレス〉

厚別区ホームページ <https://www.city.sapporo.jp/atsubetsu/>